

「生きづらさ・育てづらさ」を学び・乗り越える方法を専門家と考えるセミナー

NPO 法人 カケルとミチル

〒166-0001 東京都杉並区阿佐谷北 3-2-10

助成事業の概要

本助成事業は、全 2 回実施しました。

実施日時：2024 年 8 月 4 日（日）10：00～13：00、セッション杉並／Pietix によるオンデマンド配信。

テーマ：「発達特性と学びの多様化」

登壇者：シンポジウム（小玉武志、中川将吾、小宮さゆり）、対談（内藤賢司、岡琢哉）

参加者：

現在大きな課題となっている不登校に焦点を当てて、発達特性と学ぶ機会、学ぶ場への適応の難しさ、学びの多様化学校の制度や利用児童の様子などについてシンポジウムで幅広く情報提供を行いました。その後の対談ではゼロ高等学院の内藤氏より実際の教育支援について講話を行っていただきました。

実施日時：2025 年 2 月 16 日（日）10：00～13：00、つくば co-en イベントスペース

テーマ：「発達に合わせた遊びとコミュニケーション」

登壇者：シンポジウム（岡琢哉、小玉武志、中川将吾）、ディスカッション

参加者：18 名

子どもの発達に合わせた遊びの重要性と、それに伴うコミュニケーションの発達について考える機会として参加者とのディスカッションを行いました。

事業の成果

本事業は、第 2 回、第 3 回の発達障害と生きづらさフォーラムと題し、2023 年度に実施した第 1 回の内容を踏襲する形で実施しました。私たちのこのイベントは、様々な発達特性によって現在抱えている困難さや悩みに対して、幅広い知見から解決につながる糸口を提供することにあります。そのため、登壇者には、医師だけではなく、作業療法士や学びの多様化学校の養護教諭などから実践に基づくテーマディスカッションを基本としています。これらの情報の共有によって、参加者の方々には現在行われている幅広い実践に加え、それぞれの切り口によるアプローチについて知ることに繋がった。さらに、参加者とのディスカッションでは、具体的な困りや悩み、シンポジウムを受けての疑問などを、専門家に対して率直に投げかけることができ、日々の疑問の解消や新たな視野を広げることが可能となりました。参加者に実施した事後アンケートにおいても、ほぼ 100%が「満足した」に答えており、期待に応えられている内容となっていたことが示されました。また、フォーラムに合わせたテーマを取り扱った SNS 媒体の情報発信を行っていることなど、私たちの活動を知ってもらうきっかけともなりました。参加者の方々がそれぞれの抱える生きづらさに対して、日々の疑問の解消につながる情報にもアクセスできるようになり、それ自体も満足度に大きく影響したと考えています。今後の当法人の活動への期待として、当事者の話や幼少期からの将来を見据えた支援、思春期

や性についてなど、新たなテーマについてもいくつかの候補を挙げていただきました。

発達障害を取り巻く社会的課題は、現在社会の大きなトピックスともなっていると同時に、インターネット上に様々な情報が飛び交い、保護者や支援者、当事者なども正しい情報へのアクセスが難しい現状にあります。今回実施したフォーラムは、これらの日々悩みを抱える支援者、当事者の方々に有益な情報を共有することができ、今後もこうした活動を継続し、幅広い参加者を募り、啓蒙していくことが重要であると考えられました。

■ 成果の広報・公表

本事情によって行われたフォーラムは、発達障害と生きづらさを抱える当事者と、それを支援する保護者や専門家にとって、様々な実践に基づいた情報提供を行うという点において、大きな成果を上げることができました。そして、このような発達障害と生きづらさフォーラムによる情報発信は、私たち自身もその重要性に対して再認識することができました。これらの成果については、今後、当法人のホームページに活動報告として掲載するとともに、法人のメンバーによる情報媒体への広報を行っていきます。そして、今後の活動がより多くの人に届くように、ソーシャルネットワークサービスなどにも積極的に情報を発信していきます。日頃悩んでいる方々に対して、アクセスしやすい情報に発信を続けていくことで、私たちの取り組みが社会全体の理解と課題解決につながる一歩に寄与できるように取り組んでいきます。

■ 今後の展開

将来的には、制度の変化や支援の選択肢が増えることが生きづらさを軽減することにつながるこ

とからも、このような対面式の研修などを通じて広く情報発信する活動を継続して行っていきたいと考えています。そのためにも私たちの活動をより広く周知していくことで、社会全体の理解と支援を促進する一助となり得るように取り組んでいく計画です。具体的には、フォーラムの内容をさらに多くの人へと届けるために広報活動に力を入れつつ、ソーシャルネットワークサービスを効果的に利用していきます。また、対面式のイベントの良さである実際に直接声を聞く機会を設けることで、「多くの誰か」ではなく、「目の前の一人」の声も大切にし、法人理念を体現できるように取り組んでいきます。さらには、法人の活動に賛同するメンバーを増やしながら、様々な分野、知見からの情報を発信していけるように、今後も、多様な専門家による実践に基づく情報提供の充実を目指していきます。